

平成9年5月15日
気象庁観測部

配信資料に関する技術資料（気象編）第20号

－ 「広域雲解析情報図」の内容の変更について －

「広域雲解析情報図」は静止気象衛星「ひまわり」の観測データから抽出した雲の分布や高度等を、メルカトル投影変換した地図上に表示したものです。このたび、積乱雲域と上層雲の移動量の表示形式の変更、上層大気沈降域と上層強風パターンの表示の新設からなる改善を実施しましたのでお知らせします。

今回の変更の詳細は別紙の通りです。






「広域雲解析情報図」の変更について

気象庁気象衛星センター

平成9年5月7日(水) 00 UTCより、「広域雲解析情報図」が変更になります。
変更点は下記の4項目です。

(1) 積乱雲域の量的表示(変更)

(表示方法)

Cumulonimbus (Cb) Area			
Pattern	 / 	 / 	
Cloud Amount	6/8 - 8/8	3/8 - 5/8	1/8 - 2/8
	xx: Cloud Top Height (x1000 feet)		


積乱雲の分布状態を以下のように3段階に分けて表現します。

ISOL : 雲量 1/8 ~ 2/8
OCNL : 雲量 3/8 ~ 5/8
FRQ : 雲量 6/8 ~ 8/8

また、「OCNL」及び「FRQ」については、雲域がある一定の面積以上の場合は組織化した積乱雲域として「波型」の閉領域で表示します。一定面積に達しない「OCNL」及び「FRQ」の雲域と「ISOL」の雲域は、積乱雲を表す雲形を付加することで表示します。

(2) 上層大気沈降域の表示(新規)

(表示方法)

Subsidence Area	
	xx: Subsidence Rate(K/hr)

赤外水蒸気チャンネルの画像から、1時間前の画像と比較して、観測される輝度温度の上昇が、ある一定値(1.5K/hr)を越えた領域を上層大気沈降域として、破線の閉領域で表示します。同時に、沈降の度合いを表すために、1時間の輝度温度変化量を数値で表示します。

上層大気の沈降は、晴天乱気流を推定するための参考資料となります。

(3) 上層強風パターンの表示 (新規)

(表示方式)



赤外水蒸気チャンネル画像の濃淡のパターンから、顕著なジェット気流に伴う特徴的な上層雲のパターンを抽出して表示します。ジェット気流の位置を特定するための参考資料となります。

(4) 上層雲の移動量の表示 (変更)

(表示方式)



現在、数値で表示している上層雲域の移動量(方向、速度)を、高層天気図で用いられている「矢羽」で表示する方式に変更します。これによって、50ノット以上の速度で移動する上層雲域の移動量が視覚的に容易に認識できるようになります。なお、移動する上層雲域の高度については、引き続き数値で表示します。

本件に関するご質問等は、以下にお願いいたします。

気象庁気象衛星センター

データ処理部システム管理課 (担当) 操野(くりの)

TEL: 0424-93-4981

FAX: 0424-92-2433

e-mail: kurino@msc.kishou.go.jp